



Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista
São Paulo, SP – 01310-925

1. マーケット・レート

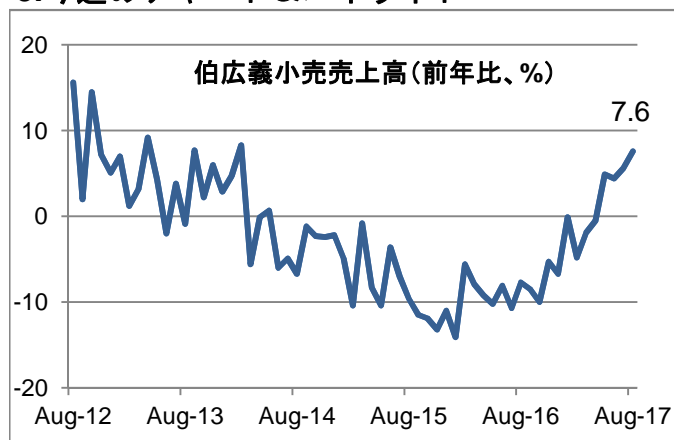
			10月9日	10月10日	10月11日	10月12日	10月13日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	3.1880	3.1800	3.1730	休場	3.1460	-0.0270
	BRL/JPY	Spot	35.34	35.36	35.44	休場	35.55	+0.11
	EUR/USD	Spot	1.1740	1.1810	1.1862	1.1830	1.1821	-0.0009
	USD/JPY	Spot	112.67	112.44	112.43	112.28	111.82	-0.46
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	7.139	7.108	7.085	休場	7.071	-0.014
	Future	1Year(p.a.)	7.208	7.314	7.146	休場	7.140	-0.006
	On-shore	6MTH(p.a.)	2.220	2.193	2.229	休場	2.257	+0.028
	USD	1Year(p.a.)	2.360	2.348	2.390	休場	2.424	+0.034
株式	Bovespa指数		75,726.81	76,897.19	76,659.81	休場	76,989.81	+330.00
CDS	CDS Brazil 5y		186.45	186.78	184.44	183.08	181.33	-1.75
商品	CRB指数		180.956	183.196	183.496	183.275	184.829	+1.554

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2. 週間市況、トピックス

- 今週のレアルはドル売りの動きにつれて3.14台半ばへ上昇。
- 週初のレアルは3.1570で寄り付いた。9日は米国市場が祝日で休場となる中、米国とトルコの外交関係悪化を受けて新興国通貨が軟化。レアルは週間安値となる3.1890まで下落した。その後、テメル大統領に関する汚職捜査を巡り国内の政治面で安定化の動きが見られる中、原油相場上昇や9月のFOMC議事録公表を控えてドルが売られる場面でレアルは3.16台前半に強含んだ。12日の伯祝日を挟み、週末にかけては米経済指標が予想を下回ったことでドルが下落。レアルは週間高値となる3.1450まで上昇し、そのまま高値圏の3.1460で越週した。
- 伯中銀によるアナリスト予想集計では、経済成長率予想は2017年が0.70%で据え置き、2018年は2.38%から2.43%へ上方修正された。インフレ率予想は2017年が2.95%から2.98%へ上方修正されたが、2018年は4.06%から4.02%へ下方修正された。為替レートは2017年末が3.16、2018年末は3.30で据え置かれた。
- 10日、汚職容疑を巡って伯連邦検察庁がテメル大統領に対して行った二回目の起訴について、下院の憲法法務委員会(CCJ)の報告官が起訴内容を認めない旨の報告書を発表した。今後、CCJで同報告書の賛否に関する採決が行われた後、下院本会議において最高裁での審理開始の是非が採決される予定。
- 11日、9月のFOMC議事録が公表された。年内の再利上げは正当化されるとの判断が示された一方、多くの参加メンバーが最近の低インフレについて一過性の要因ではない可能性があるとの懸念を表明。市場ではややハト派寄りを受け取られた。
- 13日に発表された9月の米消費者物価指数は前月比+0.5%と市場予想の+0.6%を下回った。同日に発表された9月の米小売売上高も予想を下回り、これらを受けて米金利は低下、ドルが主要通貨に対して下落した。

3. 今週のチャート&ハイライト



8月の伯広義小売売上高は3か月連続で前月比増加

11日に発表された8月の伯広義小売売上高は前月比+0.1%と3か月連続で前月から増加した。前年比では+7.6%と4か月連続の増加。引き続き伯中銀による金融緩和やインフレ低下による実質賃金増加を背景に、消費が緩やかな回復傾向となっていることが確認された。一方、項目別で見ると10項目のうち事務・通信機器や衣服・靴など7項目が前月から低下するなど消費回復の広がり方はまだら模様。インフレ低下や金融緩和サイクルは継続しており、消費の持ち直しがより幅広い分野に拡大していくか注目される。



4.来週の為替市場注目点

予想ドル・レアル相場レンジ：3.10-3.20

来週のレアルは堅調な動きを予想する。FOMC議事録を受けてややハト派寄りを受け取られたFRBの姿勢が引き続きドルの上値を重くすると見られる。また、国内ではテメル大統領に対する起訴を巡り、早ければ来週から下院本会議での審議が始まる予定。最高裁での審理開始には下院で3分の2の賛成票が必要となるが、テメル大統領はこれを阻止することが可能と見られている。政治的な安定が期待される中、ブラジル資産に対する見方の改善がレアルをサポートすることが予想される。

来週は国内で17日に8月IBGEサービス部門売上高、18日に8月経済活動指数が発表予定であり、緩やかな景気回復シナリオをサポートする内容となるか注目したい。また、20日には10月の伯インフレ率(IPCA-15)が発表される。伯中銀による金融緩和の背景となっているインフレ動向について内訳に注目したい。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
米	消費者物価指数(前月比)	0.6%	0.5%	0.4%
米	CPI除食品・エネルギー(前月比)	0.2%	0.1%	0.2%
米	小売売上高(前月比)	1.7%	1.6%	-0.2%
米	小売売上高(除自動車/前月比)	0.9%	1.0%	0.2%
米	シカゴ大学消費者マインド	95.0	101.1	95.1
米	企業在庫	0.7%	0.7%	0.2%

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	10/16	FGV CPI IPC-S	Oct 14	--	0.14%
ブラジル	10/16	税金	Sep	104500m	104206m
米	10/16	ニューヨーク連銀製造業景気指数	Oct	21.0	24.4
ブラジル	10/17	IBGEサービス部門売上高 前年比	Aug	-2.0%	-3.2%
米	10/17	輸入物価指数(前月比)	Sep	0.6%	0.6%
米	10/17	鉱工業生産(前月比)	Sep	0.2%	-0.9%
ブラジル	10/18	FGVインフレ率IGP-10(前月比)	Oct	0.54%	0.39%
ブラジル	10/18	経済活動(前月比)	Aug	-0.05%	0.41%
米	10/18	住宅着工件数	Sep	1175k	1180k
米	10/19	フィッシャー連銀景況	Oct	22.0	23.8
米	10/19	先行指数	Sep	0.1%	0.4%
ブラジル	10/20	IGP-M Inflation 2nd Preview	Oct	--	0.41%
ブラジル	10/20	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Oct	2.72%	2.56%
ブラジル	10/20	CNI Consumer Confidence	Oct	--	98.5
米	10/20	中古住宅販売件数	Sep	5.30m	5.35m

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さい。宜しくお願ひ申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は、著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。